



# <ゆうゆうの里>震災対応臨時ニュース No.31

2011年4月17日 (財)日本老人福祉財団  
103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7  
Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

## 37日ぶりの入浴です

### 第3次隊長レポート⑤【16日(土) 20:30】

- <ゆうゆうの里>支援派遣隊の活動が、通算20日目になりました。
- 今朝は、さわやかに晴れていましたが、正午頃から雨と強風と雷が急にやってきました。先日のレポートのとおりで、土煙や瓦礫の一部が飛んできました。午後、女性隊員二人には休みをとってもらい、隊長は避難所を回りました。
- 本日の遠野→大槌ルートは、釜石を経由しない山道を使ってみました。土・日は、釜石での渋滞が予想されたためです。渋滞なくいけました。
- 今日から、レンタカー(軽自動車)も使います。入浴の送迎は<ゆうゆうの里>支援車両(ワゴン車)、避難所を回ってのニーズ調査には軽自動車と使用します。道の狭い避難所にも、安心かつ効率的に通うことができます。



### 三陸園で入浴介助

- 午前中は、男性1名の入浴のお手伝いです。本日から三陸園デイサービスのお風呂を使わせてもらいました。

### 【Sさん】

- 4年前に左足膝から下が欠損となった男性です。震災前は、独居で外出には電動車椅子を使用されていたそうです。
- 担当されている保健師の話では、気難しい方とのことでしたが、お会いしてみるとあまりそのようには感じませんでした。
- 両手、右足は、しっかりしており、片足で飛び跳ねて5m位移動できるほどでした。「避難生活で食べ物あるし、タバコ吸えないから、肥っちゃったよ。」とのこと。
- 震災の時は、大槌町病院の近くにて、津波警報が鳴ったので、「大丈夫だろう」と避難していない人がいる中、電動車椅子で急いで大槌病院の屋上までいったとのこと。津波は2回あり、2回目が高く、「もう終わりだ」と思ったとのこと。2日間屋上で過ごし、大槌高校に避難。
- 震災から風呂には入っていなかったとのこと(37日目です)。漁師をされていたので、「長期間風呂に入らない生活には慣れている。」だが、周りの人が勧めるし、「くせえからなあ、入ることにした。」とのことでした。
- 家は流されてしまったし、身寄りはない。今後の生活の見通しはたっていないと話されています。
- 三陸園のデイサービスの相談員さんも笑顔で対応してくれました。

### ニーズ調査

#### 【赤浜小学校】

- 午後は、女性隊員2名は休み。隊長は、赤浜小学校避難所の保健師さんから依頼があった男性Aさんのところへ伺いました。
- 赤浜小学校の近くの避難所となっている児童館へAさんを訪ね、娘さんよりお話を伺いました。
- 震災時、外に長時間いたために、体調を崩し青森の病院に入院していました。体調が安定し青森の病院から北海道の病院へ転院することとなりましたが、本人が地元に戻ることを希望し、大槌に戻ってきたとのこと。
- 足腰が弱っているくらいで、少し介助をすればよいとのことでした。
- その後、新たなニーズはないか?、大ヶ口多目的集会所、吉里吉里

小学校を訪れました。

#### 【大ヶ口多目的集会所】

- 保健師が常駐しておらず代表者の方から話しを伺いました。避難者は減ってきています。私達の支援を説明した上で介護ニーズを伺うと、地域包括も入浴の送迎をしていただいているので大丈夫とのことでした。

#### 【吉里吉里小学校】

- 担当保健師は、なんと千葉の方で、隊長と同じ市にお住まいの方でした。<ゆうゆうの里>派遣隊の支援内容を説明し、お話をしました。「ニーズはあると思うが、保健師の活動を引き継いだけばかりなので…」と。後で連絡をして下さることとなりました。
- 吉里吉里小学校の校庭に TENT 風呂がありました。「薪の湯～遠野からはこびました」と表記がありました。代表の方が不在でしたので詳しくは聞けませんが、新たなハード発見です。

#### 4月17日の予定

- 午前中、三陸園のお風呂を借りて、避難所の男性2名の入浴介助。
- 午後は、赤浜小学校保健所で、女性3名のニーズ調査(再聴き取り)の予定です。

## 岩手日報に紹介されました

4月16日「岩手日報」朝刊

今後の活動に向けて、意見交換するボランティアメンバー。(左から時計回りに)小田聡一さん、青島弘光さん、遠沢雅美さん、山本朝子さん、青木孝治さん、小久保ゆきさん

### 遠野に支援拠点開設

東日本大震災で国から訪れるボランティアの活動拠点として、遠野市大工町に県立遠野災害ボランティア支援センターが開設された。日本財団や全国のボランティアネットワークの共有施設で約40人が宿泊できる。住民部の被災者活動する人々が体を休め、同市のボランティア団体と情報交換を行う場としても機能している。

#### 県災害ボランティアセンター

14日(仮)の同センター 携がらんと必要だね」 警急の現場と炊 事場、洗濯機などを 大槌町で介護施設と併設に意見交換し、 なる。運営は被災地 法人の「ゆうゆうの里」 プレハブの隣に、 NPO 協賛センター 移動政、宿泊は数 聖隷福祉事業団(本部、国が認められるボランティア)のメンバー、IAの活動拠点とする 財団や青森県ボランティアセンターのメンバー、IAの活動拠点とする 高齢者の入浴の要が、各地で準備に備え災害 IA 緊急災害ボランティアセンターを毎日10 高まっていること、IA委員会、震災が、IA を中心に毎日10 できる施設がある。 つながる全国ネットワークを利用する、テ ー(一地区の保健師)の連クの名で整備、30 程度のボランティア

#### 宿泊機能を備え 情報交換の場にも 長期活動可能に

「ボランティアは自ら センターで心身を リンクが原則にされ、 メンバーも毎日全 活動活動している 支援を要する。 同支援センターの 理人、佐々木俊一さん (28) 青森市出身は、 取の組織を全 支援を必要と 支援を要する。

2階建てのプレハブで、宿泊ができる県立遠野災害ボランティア支援センター。全国から訪れるボランティアの活動拠点として機能する一遠野市大工町

## 東日本大震災救援募金(義援金)募集中

4月12日までの募金 累計 925万円

明日累計を発表します

<ゆうゆうの里>及び本部事務所に募金箱を設置しています

☆寄付先や用途を指定される場合、寄付金控除のための領収書が必要とされる場合は、事務所へお申し出ください。

☆集まった募金は、日赤、共同募金会、NPOなどに送金し、被災地の救援活動や復興資金に充てます。